参考資料２

第 20 回アジア競技大会の開催に向けた検討状況及び今後の取り組みについて

1　開催都市契約

・平成30年８月19日に、インドネシア・ジャカルタで開催されたアジア・オリンピック評議会（ＯＣＡ）の総会で開催都市契約を締結

2　組織委員会

・開催都市契約に基づき、大会の準備及び運営を担う法人として、開催都市及び日本オリンピック委員会（ＪＯＣ）が共同で設立

・平成30年４月に設立準備委員会第１回会議を開催し、平成31年５月以降に一般財団法人として設立し、設立後１年以内に公益法人化する方針を決定

・平成30年12月の第２回会議で組織委員会の定款骨子、事業計画などを決定するとともに、年度内を目途に評議員・理事を内定予定

3　大会開催基本計画

・開催準備の各分野における基礎的な事項と、大まかなスケジュールを示す「大会開催基本計画」の策定に着手（ＯＣＡへの提出期限：組織委員会設立後６ヶ月以内）

・大会開催基本計画に基づき策定する各分野の諸計画について検討を行うため、第18回アジア競技大会（以下「ジャカルタ大会」という。）の現地調査などを実施

・大会会期を2026年９月19日（土）から10月４日（日）の16日間に設定

≪大会開催基本計画の対象分野【15分野】≫

大会概要、競技、式典・文化イベント、競技会場・施設（選手村、宿泊施設など）、要員、競技備品、輸送、情報システム、放送・報道、国際関係、国際儀礼（プロトコル）、資格認定（アクレディテーション）、警備、広報、マーケティング

4　競技会場（詳しくは、別添１「第20回アジア競技大会 競技会場の検討状況一覧表」参照）

・開催構想で示した候補会場について、市町村からの提案や競技団体の意向、新施設の整備計画を踏まえ再調整中

・平成31年夏頃までに、再調整後の競技会場を提示予定

・テニス・ソフトテニスについては、東山公園テニスセンターに課題があり、競技会場の変更も含めて検討していたが、アジア競技大会の会場要件を勘案すると、県内で対応可能であるのは当該施設のみであることから、東山公園テニスセンターで開催できるよう対応方法を検討中

・メイン会場となる瑞穂公園陸上競技場について、改築に向けた調査などの業務を委託により実施

≪業務内容≫

・35,000席を確保するため、敷地の拡張や高度制限の緩和などによる建築可能性を検討

・建設事業費、維持管理費などを踏まえ、適切な席の割合（本設・仮設など）を調査、検討

・瑞穂公園陸上競技場の収益性を確保するための方策や施設のあり方を調査、検討

・上記の検討を行い、複数の基本計画図を作成し、それぞれの図をもとに、民間活力導入可能性（改築やその後の運営を直営で行うのかＰＦＩなどによる民間活力を活用するのか）を調査し、比較考量

・照明や電源など映像制作の観点から、各候補会場の適合性などについて調査を実施

5　選手村

［選手村後利用の検討］

・メイン選手村となる名古屋競馬場跡地の将来のまちづくりを見据え、後利用基本構想を検討中

・選手村後利用の検討、選手村整備及び事業者募集の参考とするため、民間研究会を設け、事業進出意欲がある民間事業者の提案に基づき、意見交換などを実施（不動産・住宅供給事業者、ゼネコンなど11者）

※詳しくは、別添２「民間研究会の対話事業者選定と進め方について」参照

・平成30年12月まで意見交換などを実施するとともに、有識者や市民の意見も踏まえ、平成31年度に後利用基本構想をとりまとめる予定

［選手村の検討］

・メイン選手村は、後利用施設を大会時に選手村施設として一時使用するとともに、その他必要となる選手村施設を仮設施設で整備するよう検討中

・選手村から離れた競技会場は、ホテルや研修所などを活用し選手村を分散

・メイン選手村及び分散する選手村について、集合住宅などの施設を選手村として一時使用するための仕様、仮設建築物の工法及びコストについて検討中

・メイン選手村の施設規模や配置について、ジャカルタ大会の現地調査や想定される後利用施設の配置を踏まえ検討

6　広報・ＰＲ

ジャカルタ大会の開催に合わせ、愛知・名古屋大会のＰＲを実施

≪実施例≫

・アジア大会ファンラン（平成30年７月７日実施）

・オアシス21の夏休みイベントでのＰＲブース出展やアジア競技大会競技体験会

・ナナちゃん人形を使用したＰＲ（平成30年８月15日～８月21日）

・ジャカルタ大会の番組ＣＭや在名テレビ局番組内での愛知・名古屋大会のＰＲ

・ＯＣＡ総会などで愛知・名古屋大会や当地の魅力をＰＲ

7　レガシー

ビジョンの検討にあたっては、県市で方向性が異ならないよう、検討状況などを適宜情報交換しながら、以下のとおり策定作業を実施

[愛 知 県]

・スポーツの振興や観光振興、国際交流の促進など、大会を契機に県として取り組むべき地域活性化の方向性や想定される取組を取りまとめた地域活性化ビジョンを、今年度末を目途に策定

・策定にあたっては、学識者や経済団体などで構成される有識者会議や学生を対象としたワークショップを開催し、その意見も踏まえ検討（平成30年７月25日に第１回有識者会議、平成 30 年 10 月 5 日に第２回有識者会議を開催）

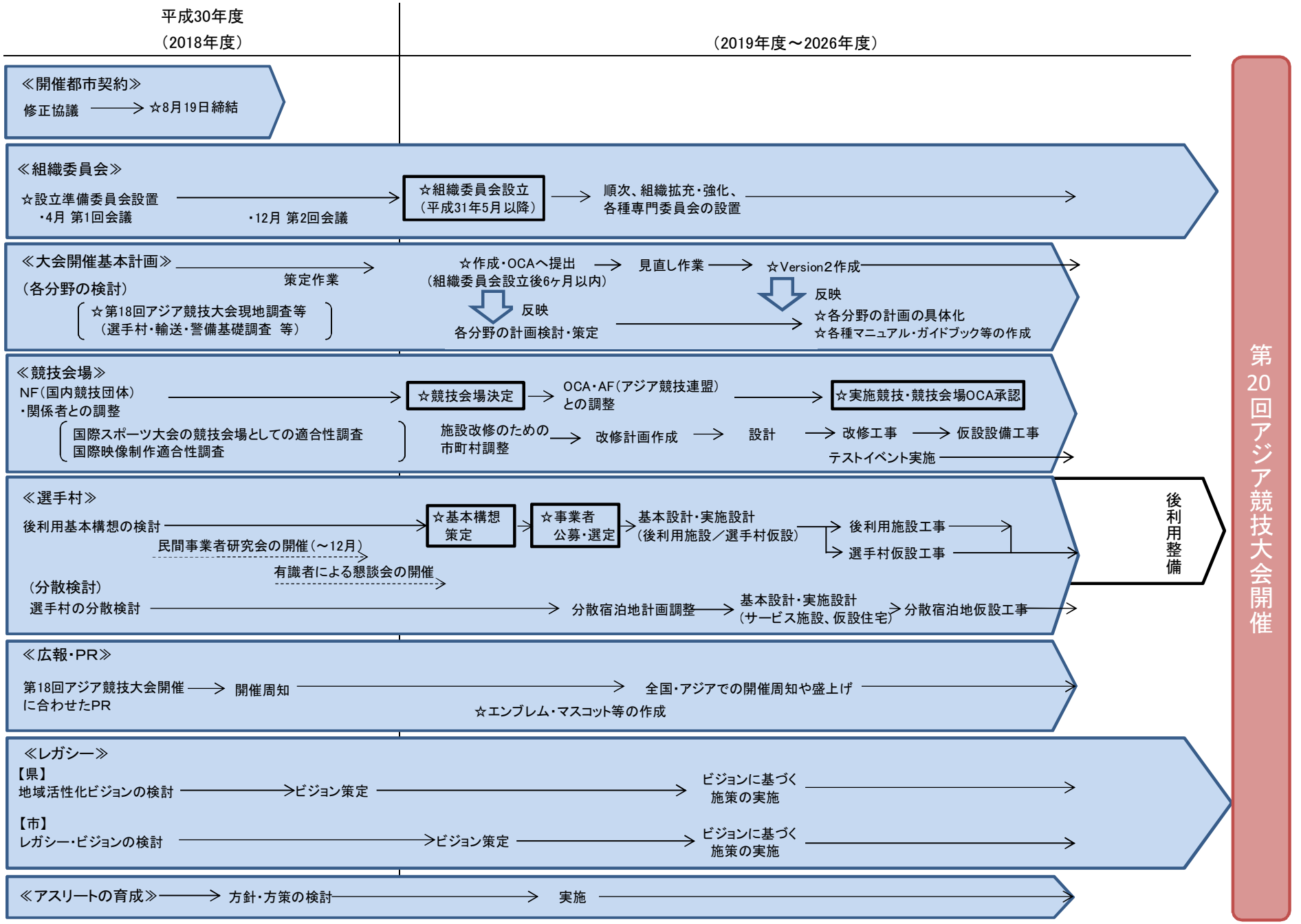
※参考：別添３「アジア競技大会を活用した地域活性化ビジョンに係る有識者会議第２回会議」資料を参照

[名古屋市]

・大会を通じて遺したいレガシーとその実現に向けた主な取組を明らかにしたレガシーに関するビジョンを、平成31年度からの次期総合計画との整合性を図りつつ策定

・策定にあたっては、学識者で構成される有識者懇談会や次期総合計画における市民意見などを踏まえ、ビジョンを検討（平成30年６月４日に第１回有識者懇談会を開催。

開催までの取組予定


平成30年度
（2018年度）
（2019年度～2026年度）
≪開催都市契約≫
修正協議
☆8月19日締結
≪組織委員会≫
☆設立準備委員会設置
・4月 第1回会議
・12月 第2回会議
☆組織委員会設立
（平成31年5月以降）
順次、組織拡充・強化、
各種専門委員会の設置
≪大会開催基本計画≫
（各分野の検討）
☆第18回アジア競技大会現地調査等
（選手村・輸送・警備基礎調査 等）
策定作業
☆作成・OCAへ提出
（組織委員会設立後6ヶ月以内）
見直し作業
☆Version2作成
反映
各分野の計画検討・策定
反映
☆各分野の計画の具体化
☆各種マニュアル・ガイドブック等の作成
≪競技会場≫
NF（国内競技団体）
・関係者との調整
国際スポーツ大会の競技会場としての適合性調査
国際映像制作適合性調査
☆競技会場決定
OCA・AF（アジア競技連盟）
との調整
☆実施競技・競技会場OCA承認
施設改修のための
市町村調整
改修計画作成
設計
改修工事
仮設設備工事
テストイベント実施
≪選手村≫
後利用基本構想の検討
民間事業者研究会の開催（～12月）
有識者による懇談会の開催
☆基本構想
策定
☆事業者
公募・選定
基本設計・実施設計
（後利用施設／選手村仮設）
後利用施設工事
選手村仮設工事
後利用整備
（分散検討）
選手村の分散検討
分散宿泊地計画調整
基本設計・実施設計
（サービス施設、仮設住宅）
分散宿泊地仮設工事
≪広報・PR≫
第18回アジア競技大会開催
に合わせたPR
開催周知
全国・アジアでの開催周知や盛上げ
☆エンブレム・マスコット等の作成
≪レガシー≫
【県】
地域活性化ビジョンの検討
ビジョン策定
ビジョンに基づく
施策の実施
【市】
レガシー・ビジョンの検討
ビジョン策定
ビジョンに基づく
施策の実施
≪アスリートの育成≫
方針・方策の検討
実施
第20回アジア競技大会開催

アジア競技大会を活用した地域活性化ビジョンに係る有識者会議
第２回会議　次第

日時：平成３０年１０月5日（金）
１０：３０～
場所：アイリス愛知　２階 コスモス１・２

開　会

１　あいさつ

２　議題
（１）地域活性化ビジョン中間案について

３　その他

閉　会

【資料】
資料　アジア競技大会を活用した地域活性化ビジョン中間案

アジア競技大会を活用した地域活性化ビジョン中間案

〔アジア競技大会〕

・アジア競技大会は、第二次世界大戦後まだ間もない 1951 年、戦禍によって引き裂かれたアジアの諸国の絆を、スポーツを通じて取り戻し、アジアの恒久平和に寄与したいとの願いを込めて、インドのネルー初代首相の提唱により、日本を含む 11 か国の参加のもと、第 1 回大会がニューデリーで開催された。以来、スポーツにより友情を育み、多様性を認め合うことを通じて、国際平和に寄与する一大イベントとなっている。

・アジア競技大会は、オリンピック憲章に明示されている『オリンピズム（Olympism）』を規範とする大会である。オリンピズムとは、近代オリンピックの父であるピエール・ド・クーベルタンが提唱した"オリンピックの精神"ともいうべき理念・哲学のことで、オリンピズムの目的は「人間の尊厳の保持に重きを置く平和な社会の推進を目指すために、人類の調和のとれた発展にスポーツを役立てることである」としている。また、努力することの喜び、友情、連帯感、フェアプレーの精神と相互理解、いかなる種別の差別をなくすことなどに言及している。

・2026 年開催の愛知・名古屋大会は、スポーツ界にとって、2020 年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の次なる大きな目標となり、拡大するアジアとの交流を一層深める機会となるなど、日本全体にとっても大変意義のある大会である。

・愛知県及び名古屋市では、アスリートファーストの視点を踏まえながら、簡素で質素な、そして機能的で合理的な大会を目指し、開催準備を進めている

（大会コンセプト）

・アスリートファーストの視点
・既存施設の活用
・先端技術の駆使
・伝統と県民・市民性に触れるおもてなし
・アジア競技大会の開催を誇りに、さらなるスポーツ文化の普及への貢献

【視点１】スポーツの力を活かす

●スポーツは、青少年の健全育成や健康の保持増進、国や地域の誇り・連帯感の醸成、国際的な友好親善とどまらず、強力な集客力や情報発信力、など多様な力を備えている。近年、こうしたスポーツの多様な力が地域づくりに極めて有益なものとして認知されるところとなっている。

●こうしたスポーツが備える多様な力を幅広にとらえ、スポーツの成長産業化、さらには、地域の活性化に活かす。

【視点２】アジアと強くつながる

●アジアは世界の人口の６割にあたる約 40 億人が居住しており、今後も人口増加が予想されている。同時に、アジアは依然として高い経済成長を続けており、今後も高い経済成長が見込まれる。

●成長著しいアジア各国・地域との間で、経済活動はもちろんのこと、文化活動、友好活動等の交流を積極的に展開していくことは、地域活性化を考える上で不可欠な取組と言える。

●アジア最大のスポーツの祭典であるアジア競技大会が愛知で開催されるこの機を活かし、アジアとのつながりを一層強固なものとする。

（選手団：15,000 人・メディア：10,000 人）

【視点３】多彩な人々が参加する

●愛知で開催されるアジア競技大会を一過性のイベントに終わらせるのではなく、この大会をきっかけに広く地域に良い意味の変化をもたらす大会としていくことが肝要である。

●そのためには、アジア･オリンピック評議会（ＯＣＡ）や組織委員会、行政（県・市町村）のみが実施する大会とするのではなく、様々な分野、世代、立場の県民、企業、団体等が大会を"我が事"としてとらえ、それぞれが主体的に行動していくことが望まれる。

●多彩な人々が参加する大会とし、多くの方々の参加の下で地域活性化に取り組む。

【視点４】リニア開業を見据える

●アジア競技大会（愛知･名古屋大会）が開催される 2026 年の翌年度にはリニア中央新幹線（東京-名古屋間）の開業が予定されている。

●リニア中央新幹線の開業は国土構造に大きな変化をもたらし、本県の地域づくりの大きなインパクトとなる。

●既に、あいちビジョン 2020 では、リニア中央新幹線の開業を見据え、『リニアを生かし、世界の中で存在感を発揮する中京大都市圏』をめざすべき愛知の姿として標榜している。

●2027 年度のリニア中央新幹線の開業とそれが地域にもたらすインパクトを見据えて、地域活性化に取り組む。

４つの柱	基本施策	主な取組	関連計画における事業・取組	出典計画等
１．スポーツで愛知をブランディングする 【スポーツ・健康】 大会を契機に、スポーツが持つ多様な効果や魅力（する･見る･支える）を理解し、スポーツの価値を選手、ファン、地域（県民）とともに高め合う。 こうした取組を通じて、愛知のブランド力を高めていく。	1-1.トップアスリートの育成･輩出 多くのトップアスリートを発掘し、育て、活躍する仕組みをつくる。	①競技力向上対策事業、オリンピックあいち選手強化事業の継続 ②タレント発掘・育成事業の実施 ③アスリートサポート事業の実施 （アスナビ、セカンドキャリア支援など） ④コーチ・トレーナー等のサポート人材の育成・確保 ⑤トレーニング環境の充実 （トレーニング強化拠点の確保、医科学部門との連携など）	○ジュニア選手の発掘・育成・強化 ○トップアスリート（チーム）の強化・連携・活用 ○スポーツ指導者及び審判員等の養成	いきいきあいちスポーツプラン（改訂版）（2018.3）
			○世界で活躍するスポーツ選手の育成	あいち子ども・若者育成計画 2022（2018.8）
	1-2.スポーツの振興 各世代のスポーツの場づくりや機会づくりにより、多様な形でスポーツに親しむことができる環境をつくる。	①地域の運動会やスポーツイベントとの連携 ②スポーツ関連施設の有効活用の促進 （学校施設、企業施設、公園施設の開放など） ③スポーツ体験イベントの実施 ④地域密着型の特定競技の普及・応援の推進	＜学校と地域における子どものスポーツ機会の充実＞ ○幼児期からの運動習慣の確立 ○学校と地域における子どもの体力向上への取組 ＜ライフステージに応じたスポーツ活動の推進＞ ○若者を始めとした成人のスポーツ参加機会の拡充 ○高齢者の体力づくり支援	いきいきあいちスポーツプラン（改訂版）（2018.3）

		⑤地元チーム・アスリートの応援事業の実施 （aispo!等との連携）	○障害者のスポーツ活動の推進 <住民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備> ○総合型クラブの育成支援 ○子どものスポーツ環境の充実に向けた総合型クラブと学校との連携 ○地域のスポーツ指導者・クラブマネージャー等の養成及び活用促進 ○地域スポーツ施設の充実と学校体育施設の有効活用の促進 ○地域スポーツと企業・大学との連携・協働	
			○スポーツに参加する機会の充実	あいちの教育ビジョン 2020（2016.3）
			○スポーツ・文化芸術活動の推進	あいち子ども・若者育成計画 2022（2018.8）
	1-3.スポーツ大会等の招致 全国レベル、国際レベルの様々なスポーツ大会を愛知県に招致して開催する。	①国際大会、国際親善試合の招致 ②全国レベルの大会の招致 ③ジュニア大会・マスターズ大会等の招致・開催 ④合宿・事前キャンプ等の誘致	○スポーツ大会の招致・育成	あいち観光戦略 2016-2020（2016.2）
			○国際競技大会等の開催等	いきいきあいちスポーツプラン（改訂版）（2018.3）
			○国際スポーツ大会の招致・開催	あいち国際戦略プラン 2022（2018.3）
	1-4.アジアのスポーツ振興への貢献 アジア全体のスポーツ振興に貢献するため、アジアと愛知とのスポーツ交流を進める。	①アジアのアスリートの受入 （県内チームへの受入、トレーニング施設の開放など） ②アジアへのコーチ・指導者等の派遣 ③アスリートによるアジアとの交流 ④アジアのジュニア選手の招待・交流 ⑤アジア競技大会運営ノウハウの提供	●スポーツ・フォー・トゥモロー（スポーツ庁） ●競技団体・大学・企業等との連携によるスポーツ開発（JICA）	（事例）

４つの柱	基本施策	主な取組	関連計画における事業・取組	出典計画等
2. 多くの来訪者で賑わう愛知をつくる 【観光・文化】 大会を契機に、アジア諸国を対象としたインバウンド観光の振興を図るとともに、愛知の文化、芸術、コンテンツに対する関心を高める。 魅力があり、訪れやすい地域としての評価を獲得し、多くの来訪者で賑わう愛知をつくる。	2-1.愛知を中心とした観光交流拠点の形成 周辺地域とともに広域的な観光交流拠点県の特性を活かしたアジア向けのＰＲ、プロモーション等を展開する。	①アジア競技大会の PR とあわせた愛知の魅力発信 （アジア競技大会関連観光プロモーション・キャンペーン） ②アジアからの来訪者向けのツアー造成 （アジア各国の嗜好･ニーズに合わせたツアー造成･ＰＲ） ③食文化の魅力の発信 ④広域観光の推進 （インバウンドを意識した県内観光資源の育成、回遊できる環境づくり、県外観光地との連携、広域観光交流拠点としての機能の充実など）	○多言語での情報発信など海外向けプロモーション ○医療ツーリズム、MICE、国際スポーツ大会などを活用した誘客 ○在住外国人による愛知の魅力発信	あいち国際戦略プラン 2022（2018.3）
			○情報発信の充実・強化 ○駐日外国公館・外国政府観光局・海外メディアとの連携 ○グルメ・食文化のブランド化 ○着地型観光の推進 ○広域観光の推進 ○交通拠点発の二次交通及び観光周遊コースの充実 ○企業、ＮＰＯ、市民活動、大学、留学生などとの連携・協働	あいち観光戦略 2016-2020（2016.2）
			○訪日外客誘致に向けたプロモーションと受入態勢の強化 ○観光資源の充実とブランド化の推進 ○観光交流拠点県としての機能強化	あいち産業労働ビジョン 2016-2020（2015.12）
			○在住外国人観光戦略チームによる地域の魅力発見・発信	あいち多文化共生推進プラン 2022（2018.3）
	2-2.スポーツ・文化等のコンテンツの充実 スポーツツーリズムや文化プログラムの展開など、愛知の多様なコンテンツを活かした集	①スポーツツーリズムの推進 （アジアからの誘客を意識した商品開発・PR） ②文化芸術イベントの展開 （あいちトリエンナーレ等のイベントとの連携、ポップカルチャー、コスプレなどの推進）	○武将観光・産業観光の推進 ○伝統・文化に触れる観光の推進 ○映画・ドラマのロケ地支援及びロケーション資源の活用 ○ポップカルチャー観光の推進 ○酒蔵を生かしたツーリズムの推進	あいち観光戦略 2016-2020（2016.2）
			○多言語対応を意識した芸術文化活動の実施	あいち多文化共生推進プラン

	客を図る。	③産業観光・歴史観光の推進 （企業博物館、工場見学、伝統工芸、武将観光など）	○スポーツイベントや文化活動などを通した相互理解の促進	2022（2018.3）
			○国際芸術祭「あいちトリエンナーレ」による世界に向けた新たな芸術の創造・発信 ○国際的なパートナーシップやネットワークの構築 ○新進芸術家の活動発表・交流の場づくり ○多言語での文化情報の提供等 ○地域の文化資源の情報発信 ○文化資源等を活かした活動への支援 ○スポーツイベントとの連携	あいち文化芸術振興計画 2022（2018.7）
	2-3.受入態勢の整備、おもてなしの充実 インターネットの利便性向上、多言語対応、ムスリム対応等により、外国人が快適に滞在できる環境を整備するとともに、県民によるおもてなし態勢の充実を図る。	①来訪者の利便性の向上 （公共交通の利用利便性、インターネット環境、キャッシュレス対応など） ②案内機能の充実 （サポートデスクの設置、案内ツール等の普及促進など） ③多言語対応の充実 （案内の多言語表示やピクトグラム充実、自動翻訳機の活用、AI や IoT の活用） ④多様な文化・宗教への配慮 （礼拝所の確保、ムスリム対応など）	○多様な外国人観光客の受入促進	あいち国際戦略プラン 2022（2018.3）
			○アジアを重視した誘客促進と受入環境の整備促進 ○訪日教育旅行の誘致・受入 ○インターネット環境の利便性向上 ○観光案内所・案内看板・観光施設の多言語対応 ○免税店・ナイト観光の充実 ○自然災害発生時等における旅行者の安心・安全の確保 ○観光ボランティアガイド等を通じた県民によるおもてなしの向上	あいち観光戦略 2016-2020（2016.2）
			○訪日外客誘致に向けたプロモーションと受入態勢の強化	あいち産業労働ビジョン 2016-2020（2015.12）
			○訪日外国人旅行者の増大や ICT の進化に対応した取組	あいち商店街活性化プラン 2016-2020（2016.2）
			○多言語による情報提供及び内容の充実 ○外国人コミュニティやエスニック･メディアなどと連携した情報提供 ○外国人が情報を手にとってくれるような方法の検討・実施	あいち多文化共生推進プラン 2022（2018.3）
			○名古屋駅の乗継利便性向上 ○名古屋駅のアクセス利便性向上 ○中部国際空港(セントレア)へのアクセス利便性向上 ○県営名古屋空港へのアクセス利便性向上 ○観光地への公共交通アクセス充実 ○観光客等の利便性向上 ○交通結節点における乗継利便性の確保 ○誰もが安心して公共交通を利用できる環境の創出 ○公共交通の利便性等を高める取組	あいち公共交通ビジョン（2017.3）

４つの柱	基本施策	主な取組	関連計画における事業・取組	出典計画等
3. アジアにおける愛知の産業の存在感を高める【地域経済・産業】 大会を契機に、愛知のモノづくりの歴史的蓄積や先進技術、また地場産業や農林水産物などをアジアに向けて強くアピールする。 これによりアジアと愛知の関係性を深化させ、アジアにおける愛知の産業の存在感を高める。	3-1.アジアやスポーツの課題に対応する技術開発の促進 地域のものづくり等の蓄積を活かし、アジアの課題解決やスポーツ振興等に貢献する技術開発や応用を促進する。	①アジアの課題解決に貢献するビジネス展開の促進 （起業・創業、海外企業との連携、新技術開発など） ②スポーツとの連携による産業の新たな展開 （大会運営や競技力向上にも貢献する新たな技術開発など）	○医療・福祉・介護機器など健康長寿産業の振興 ○環境・新エネルギーの振興や IT 産業など都市型産業の育成 ○デザインや異業種との連携による地場産業の高付加価値化への支援	あいち産業労働ビジョン 2016-2020（2015.12）
			○ロボット産業等への参入促進や新技術・新製品開発の推進・支援 ○医療・福祉・介護機器サービス等における開発の推進・支援 ○ICT、IoT を活用したモノづくり技術革新に向けた開発	あいち科学技術・知的財産アクションプラン 2016-2020（2016.2）
	3-2.既存の地域産品のブランド力強化と販路拡大 工業製品、農林水産物などの地域産品について、大会を機会にブランド力強化、アジアへの販路拡大等を図る。	①大会期間中における産業技術や地場産品等のショーケース化 （見本市やパフォーマンスイベント開催、大会会場･選手村等における農林水産品等地場産品の活用・ＰＲ） ②愛知の製品などのアジア向けへの市場拡大 （アジア企業等とのビジネスマッチング、販路拡大など） ③県内企業のアジア展開の促進 ④アジア各国とのパートナーシップの構築	○見本市を活用した海外販路拡大支援 ○県産品の輸出拡大支援 ○海外・県内における企業の海外展開支援 ○関係機関との連携による支援	あいち国際戦略プラン 2022（2018.3）
			○中小・小規模企業の海外展開・取引機会の拡大への支援 ○愛知ブランド企業など優れたモノづくり企業を対象とした国内外へのアピール ○中小・小規模企業の海外特許出願支援などを通じた海外における知	あいち産業労働ビジョン 2016-2020（2015.12）

			財保護への支援 ○あいち国際ビジネス支援センターによる海外展開への総合的な支援 ○海外産業情報センター・愛知県サポートデスクを通じた支援 ○ジェトロや関係機関などとの連携促進 ○海外とのパートナーシップの構築	
			○県内外に向けた戦略的な需要の拡大 ○農林水産物等の輸出の促進 ○「花の王国あいち」パワーアッププロジェクト ○いいともあいち・ブランド力強化プロジェクト	食と緑の基本計画 2020（2016.3）
			○海外での事業展開に対する知財支援 ○「知財ビジネスマッチング」の推進 ○ブランド化に対する支援 ○地域資源の権利化促進 ○デザインによる高付加価値化への支援 ○海外における知財保護に対する支援	あいち科学技術・知的財産アクションプラン 2016-2020（2016.2）
	3-3.アジアからの人材確保 アジアと愛知との親密性を高め、アジアからの高度人材の受入拡大を図る。	①外国人留学生の県内就職支援、帰国留学生との連携 ②外国人県民の地域定着、キャリアアップの促進 ③新しい在留資格制度や特区の活用による外国人材の受入促進	○外国人留学生の受入支援 ○外国人留学生の地域での活躍促進 ○帰国外国人留学生との連携 ○特区を活用した外国人材の受入促進 ○外国人高度人材の活躍を支える環境づくり	あいち国際戦略プラン 2022（2018.3）
			○外国人留学生の活用促進 ○高齢者・外国人の就業促進、キャリアアップの支援 ○海外高度人材の受入促進 ○女性・高齢者・障害者・外国人など多様な人材の活躍促進	あいち産業労働ビジョン 2016-2020（2015.12）

４つの柱	**基本施策**	**主な取組**	**関連計画における事業・取組**	**出典計画等**
４．アジアと愛知の次世代を育む 【人材育成・国際貢献】 ボランティア文化を成熟・定着させていくとともに、アジアとの交流活動、国際理解教育等を継続的に展開していくことで、アジアと愛知の次世代を担う人材を育成する。 また、あらゆる人々が多様な分野で活躍し、その能力を発揮できる社会の実現をめざす。	4-1.ボランティアの育成・活用 愛知万博から継承されるボランティア文化を活用しながら、大会を支えるボランティアの育成・活用を図る。	①ボランティアの確保・育成 （大会運営、選手サポート、来訪者案内など） ②スポーツボランティアの定着化 （ウィメンズマラソン、ラグビーワールドカップからの継続） ③ボランティアの活躍の場の創出 （ボランティアマネジメント、リーダーの育成）	○社会貢献活動の推進 ○地域で展開される多様な活動の推進 ○社会貢献活動等に取り組む若者の応援	あいち子ども・若者育成計画 2022（2018.8）
	4-2.アジアとの交流の活発化 様々なレベルでの国際的な草の根交流などを通じて、アジアと愛知の交流の活発化を図る。	①地域におけるアジア各国との交流・友好の促進 （市町村・学校・企業などの１チーム１国交流） ②アジアの外国人県民や留学生とのネットワークの構築 ③多様な分野によるアジア各国との交流促進 （経済、教育、文化、スポーツ‥‥） （「友好交流及び相互協力に関する覚書」締結先との連携）	○バンコク都、広東省、京畿道との高校生交流 ○ベトナム、江蘇省、タイ、インドネシアとの経済交流 ○ホーチミン市での帰国留学生ネットワークの活用 ○江蘇省、京畿道との文化交流	あいち国際戦略プラン 2022（2018.3）
	4-3.グローバル人材の育成と共生社会の推進 アジア競技大会を機会としたアジアとの交流を通じて、国際的に活躍のできるグローバル人材を育成する。 また､あらゆる多様性を尊重し、みんなが認め合い、支え合う社会の実現を図る。	①国際理解教育の推進 ②国際人材をめざしたキャリア教育 ③交換留学、海外との人材交流の促進 ④共生社会の推進	○学校教育における英語力強化（生徒・教員） ○若者の留学支援 ○提携先との交流（バンコク都、広東省、京畿道等） ○国際感覚の醸成 ○多文化共生の推進	あいち国際戦略プラン 2022（2018.3）
			○外国語や外国文化を学ぶ機会の充実 ○英語教育の一層の充実 ○諸外国の文化や日本の伝統・文化・地理・歴史についての理解を深める教育の充実 ○英語を始めとした語学力を高める教育の充実 ○オリンピック・パラリンピックそのものについての学びの充実 ○オリンピック・パラリンピックを通じた学びの推進	あいちの教育ビジョン 2020（2016.3）

			○人権啓発の推進と人権に関する指導の充実 ○社会福祉に貢献できる人材の育成 ○多文化共生に向けた教育の充実	
			○キャリア教育の推進 ○外国語教育の推進 ○国際交流の推進 ○オリンピック・パラリンピック教育の推進 ○人権教育・啓発の推進 ○女性、障害者、外国人の活躍の支援	あいち子ども・若者育成計画 2022（2018.8）
			○若い世代の人材育成 ○外国人コミュニティとの意見交換などの実施 ○外国人県民の力を生かしたまちづくりの紹介 ○宗教・文化などの理解に対する支援 ○多文化共生に対する理解を促進するための講座・イベントの開催 ○多文化共生に対する理解を促進するためのイベント・行事の後援・周知 ○児童生徒への多文化共生教育の推進	あいち多文化共生推進プラン 2022（2018.3）